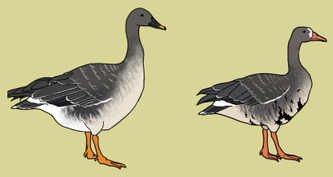

振老沼（ふらおい）のガンカモ類と野鳥

振老沼は天塩町の国道232号線の天塩と国道40号線との分岐の間の国道沿いにあります。ここは元々天塩川の旧河川でしたが、河川改修によって分離され三日月湖になりました。近年は天塩川と再び水門でつながるようになりました。

この沼はサロベツの最も南に位置し、春と秋にはガンカモ類の中継地として利用されています。サロベツでは春に最も早くガン・ハクチョウ類が到着し、日中は周辺の牧草地でも見られます。春から秋にかけて周辺では水鳥だけでなく、小鳥や猛禽類など多くの野鳥が訪れます。

天塩川の変遷

1960年頃の天塩川

現在の天塩川

（国土地理院地図より作成）

振老沼野鳥観察地図

振老沼でみられるガン・ハクチョウ類

マガン

3月下旬-4月下旬
最多期　4月中旬
2000羽
9月中-旬11月中旬
最多期　10月中旬
800羽

オオヒシクイ

3月下旬-4月下旬
最多期　4月中旬
500羽
9月中-11月中旬
最多期　10月中旬
800羽

コハクチョウ

3月下旬-4月下旬
最多期　4月中旬
30羽
9月中旬-11月中旬
最多期　10月下旬
50羽

オオハクチョウ

3月下旬-4月下旬
最多期　4月中旬
150羽
9月中旬-11月下旬
最多期　11月下旬
150羽

振老沼にはいろいろな高さの小窓がついた野鳥観察壁が設置されています。この壁の左右にもブラインドが設置されており、野鳥を驚かすことなく観察できるよう工夫されています。

観察の際の注意

4-5月、9-11月にガンカモ類は振老沼をねぐらとして利用しています。日の出時間のガンと利尻山の風景は圧巻です。驚かさないように、夜間に沼の周辺の道に車で行かないようにしましょう。

発行：NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク　　バードライフ・インターナショナル東京(PCPD)の助成金で作成